

会 議 録

内容承認	公開・ 非公開	＜開催日＞令和2年2月26日（水）	＜傍聴人数＞ 0名
藤田会長 木下副会長 中野委員		＜時 間＞午前10時～12時	＜傍聴室＞ 岸和田市立福祉総合 センター 2階 研修室1
	公開	＜場 所＞ 岸和田市立福祉総合センター 2階 研修室1	

＜名称＞ 第6回岸和田市産業教育審議会

＜出席者＞

◇岸和田市産業教育審議会委員（○出席、■欠席）

香月	北野	木下	杉山	武林	中井	中野	藤田	増谷
○	○	○	○	○	○	○	○	○

◇関係者

高橋中学校校長会会長

◇出席者

樋口教育長

◇事務局

（教育委員会関係）

藤浪教育総務部長・谷学校教育部長・小林産高学務課長・石井指導主事・

田井指導主事

（産業高等学校関係）

楠戸校長、榎本教頭

＜議題等＞

1. 開会

2. 議事

（1）産業教育審議会答申について

（2）その他

3. 閉会

【藤田議長】

ここからは私が議事を進行させていただきます。

まず、本会議の署名委員として中野委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本審議会におきましては、前回まで岸和田市立産業高等学校のより良い教育環境を整備し、充実した産業教育を実現するため、委員並びに関係者の方々のご意見をいただき、審議してまいりました。今回は、答申案をもとに、答申作成に向けた審議をお願いしたいと思いますので、みなさん、どうぞよろしくお願いいたします。

これまで6回に渡りまして審議会を進めてまいりましたが、本日が最終日ということで、産業教育審議会答申について審議してまいりたいと思います。皆様のお手元には予め今回の審議会に審議いたします答申の原案をお送りしているところがございますがお目通しいただいたと思いますので、改めて本日は忌憚のないご意見をいただき、改定をした上で答申として教育長に提出したいと思いますので、宜しくお願い致します。

では本日用意しております議題は2つです。

まずその1ですが産業教育審議会答申について審議を進めてまいりたいと思います。まず前回までの議論で委員の皆様方から多様なご意見を頂きまして、それを踏まえて事務局および会長、副会長含めて原案の方を作成いたしまして、皆様に一度事前にお渡しをしてお目通しをいただいたと思います。それを踏まえて今回の答申について忌憚のないご意見をいただきたいと思います。まずはどなたでも構いませんがご意見頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

一点 13 ページに脱字を先ほど見つけましたので先に訂正をさせていただきますと、13 ページの真ん中ほどに、一方でというところから始まる段落で、教職となっておりますが教職員という員が抜けておりますので修正をさせていただきます。

【中野委員】

2 ページの一番下の、システムまでもをとっておりますので訂正をお願いします。

【中井委員】

拝読させていただいて総合として非常によく書かれていたと思います。ただ各論の具体的なところについては、もう少しというところもあるかと思いますが、全体的には時代認識を含めた内容だったと感じております。少し最後の 15 ページですけれども、地域社会と連携を強化することも学校をさらに前進させる力になる、地域の産業界からの金銭的・人的・物的支援を得られる努力が必要である、あるいはこの前の 14 ページにございました同窓会や思成会についてももう少し具体的に踏み込まれた方がいいと思います。全体の答申を推進するためにももう少し同窓会の方も思成会の方も、我々の産業の方も含めて1つの塊としてこの学校を応援していく、あるいは、この答申の内容を、具体的に推進していくような具体的な組織を作るというようなところまで踏み込んでいただく方が現実的になると思います。

それからもうひとつ、先生方の適正というところですが、緊急かつ重要な課題だと思

ます。やはり学校の推進は先生方によって決まってくると、先生方の認識というのをどういう具合にさせていただくか、外の社会に向かってクローズされた学校ではなく、実業と繋がるという、そういう特殊な学校でございますので、余計に実際の産業について学習していただいて、もう少し厳しい側面で先生方が見ていただけるという具合に考えるほうがいいかなと思っております。拝読させていただいてほしいという感想を持ちました。

【藤田会長】

最後の体制についてはこの後修正して加筆させていただきます。

【武林委員】

この修正のところ、中井委員が具体的に表していただきましたけれども、第2回で岸和田産業教育振興会の提案がありましたけれども、ああいうのを書き込んでいただけるといいと思います。

【藤田会長】

それをベースに加筆させていただきます。

【中野委員】

中井委員がおっしゃったように今までの議論とか考え方をうまく盛り込んでいただくのが大変だったと思うのですが、ただ読んでいてよく分かるのですが、5ページの改善・充実に向けてというのがあって、6ページに4で岸和田市立産業高等学校の改善・充実に向けてという類似した内容なので、例えば5ページの3のところは改善充実に向けての視点とか、4番を変えるのであれば、～に向けての方策であるとか、そういう文言を入れていただいた方が、タイトルを見たときにこういう事だということが読んだ方がイメージしやすいかなと感じたところがございます。

【藤田会長】

その点はまた少し修正させていただきます。

【武林委員】

コースの設置で描かれております商業科改編の方向性のところで、コースの設置という表現で書いていただいておりますが、これは例えば2年生からコースを立ち上げるという意味でしょうか。9ページの真ん中に、商業科にコースを設置するとありますが、そうすると定員の問題とかそういう希望が少なくなったという問題があります。だから大幅な選択制で生徒がいろいろと教科を選択できるという感じで言っただけのほうが、マイナス面が、以前国際コースを作ったときに、定員をオーバーしてしまうところと、60名が希望するとかそういうこともありましたので、また反対の方は、25名ぐらいしかないと、クラス数が7クラスですのでそういう風に決めてしまうのではなく、学校設定科目であるとか

大幅な選択制を取り入れてみていくという方が柔軟性があるのではないかと思います。

12 ページの関連事項のところ、入学者選抜の制度との関連ですが、このところも、大幅な選択制というような文面で持っていて、ゆくゆくは学科を立ち上げて、私が思っているのはできるだけ学科を立ち上げて、入試選抜の方法を特別入試ですか、前期入試ということで持っていけたらと思っているところです。商業が大学科商業で商業と情報があります。そしてもう一つの学科があると3つの学科になる。3つになると今の入試制度でいくとどこかに定員割れが起こってくる。もうひとつの別の例えば面接試験を行うという方向で前期に持っていって先に取ってしまう。その科については、タブレットを全員に持たせてICT教育の先端を行くとか、前に中井委員さんがおっしゃっていた学校の名前を変えるぐらいの改革をとおっしゃっていたので、この間の会議の時にだいぶ突飛なことも言ったりしていたのですけれども。

もう一つ関連事項のなかで5つ書いていただいています、入学者選抜や教員の資質向上等々、このなかに例えば4番の次くらいに部活動の充実というのを入れられないかと思っています。部活動の例えば、生徒一人ひとりが充実した学校生活を実現するためにも、社会人の人材バンクを活用するなど部活動を活性化させる、仲間が仲間を高めていく全人教育の推進に期待したいとか、全人教育を推進してもらいたいとか。何を言っているかといえば、教職員の働き方改革というのもありまして、そうすると部活動を持つ人が少なくなってきたりできなくなってきました。だからこの間イチローさんの話を出したわけですが、プロスポーツ人材の採用、これは学科とかではなく、やはり学校が勢いづくと思います。部活動が盛んになっていくと。放課後や夏休みや冬休みにいきいきと生徒たちが活動する声が聞こえる学校というのが大事なことだと思います。それが入学希望者の増加につながっていく、間接的であっても増加につながっていくのではないかなど。1番最初の時に杉山委員さんがおっしゃっていた部活動の件です。あれも入れていただいて、5番を6番にして、ダイナミックな推進にして持っていけたらということをご提案したいと思います。

【藤田会長】

ではまず先に今、武林委員からの提案の部活動の充実という観点が漏れていましたので、これを追記するというご進めでよろしいでしょうか。ということでこの一点を追記させていただきたいと思います。

もう1点、先にいただいた質問というか9ページのところにかかる話ですが、いわゆる大幅な選択制の採用という形でこれについても追記するかどうかという観点ですが、この辺は私も分かりにくいところですが、制度の壁というのはこれは問題はないのでしょうか。大学ですと確かに学科の指定科目と選択科目という考え方は存在するものですが、高校でもそれは可能な事でしょうか、制度上も。

【谷学校教育部長】

特に入学者選抜、入試にかかる問題につきましては府教育庁の、今日は首席もお見えで

すけれども今後また協議をさせていただくことになるかと思えますけれども、まずはその計画がないとなかなかお答えはいただけないかと思えます。もし香月首席の方で府内でそういう近々に例があればお伺いできればと思えます。

【香月委員】

もしかすると自分自身の認識が今の議論とずれているのかも知れないですけれども。高校入試、いわゆる学力検査と関連しての学科なりコースの設置ということですか。ではなくて、入学後のカリキュラムの話ということでしょうか。

【木下副会長】

1年生の終わりとかそのくらいに2年生のコースが設置されて選択できるというのを想定しています。

【香月委員】

そうすれば入学者選抜は関係ないという事でよろしいでしょうか。そういうことであればその認識で聞いておりましたので、岸和田市立産業高校の中でどういうカリキュラムを設定されるかということですので、恐らく高校入試というときには、学科ごとに定員数が決まっていますので、それをもとに募集ということになります。

そうではなく、入学後にどこかの段階で例えば一般の普通科の学校においてもいわゆる文系理系がありますように2年生なり3年生で選択するような形でコースということを考えることは出来るかと思えます。

例えば府立高校の場合でもいわゆるコースとするのも大きく2つありまして、専門コースという位置付けにしているものについては、その専門コースに登録する生徒にあたっては、一定の単位数、例えば子どもの保育コースということに仮にさせてもらったらそれにかかる科目を卒業までに何単位学ぶということが必ずという形、いわゆる必履修という形にそのコース制にはなっていくというのもあります。それ以外に校内的な運用の中でコースというようにしているところもあり、文系コース、理系コースもありますし、看護コースなど、選択群の中からいくつか選んだ生徒は自ずと文系に、例えば数Ⅲをとれば理系になるのと一緒に、そういう形でのコースを敷いている府立高校もあります。そのあたりをどう考えられるかというところによるかと思えます。

【楠戸校長】

すみません、よろしいでしょうか。先ほどの武林委員からの選択制の話ですけれども、今現在のデザインシステム科、これは工業課程になりますが、以前は1年生が共通履修で2年生から2つの系に分かれていました。コース制みたいなものです。

いわゆるプロダクト系とテキスタイル系という2系を2年生3年生で行っていましたが、それをさらに特色化を進めるために2系を廃止して、4分野の選択制にしました。プロダクト、テキスタイル、ヴィジュアル、スペース、この4分野の選択制にすることによ

ってさらに特色が上がり今現在のデザインシステム科の形が出来上がっているということもございます。

選択制を取ることによる特色化については一定の実績が本校のなかにはあろうかと思えます。ただ選択制ということになりますと生徒たちのニーズに応える選択科目を増やさなければならぬので、そういう面でのご支援が不可欠だと思います。

【藤田会長】

制度上の問題は特にないということであれば、内容に適した形でその点についても盛り込ませていただこうかと思えます。では他にご意見ご質問いかがでしょうか。

【高橋校長】

商業科に男子生徒の志望者を増やす方法はないかと、そのことが安定した倍率の高まっていく方法ではないかと考えています。私もずっと岸和田に住んでいて小さい頃から産業高校はあって身近な好きな学校ですけれども、私の子どもも実際には進学時には産業高校は考えていなかったことがあり、それは大学に行きたいと思っていたところで、産業高校は違うかなとなっていたところがありました。

ただ、今は進学もかなり高くなっておりますので、そういう商業系の大学に進学するコースというのも作ってアピールするというのも大事かと思えます。可能かどうかわからないところもありますが、そういう方向が無いかどうかについては考えております。

【藤田会長】

大学進学に関しては、答申にも一定記載はしましたが、具体的にそれをコースとして、今回、選択制という意見もいただきましたので、その中でどう実現できるかということで、少し書き込ませていただこうかと思えます。

後は、男子生徒というところですが、今現状でみると男子生徒の人气が集中しているのもいわゆる情報科というところで、男子生徒のニーズが集中していると思えますが。そういった物作りではないですが、機械に触るとか何かがあるといいのかと思えますが、まだ具体的には書き込んでないので、そういう観点が重要であるということはお伝えしておこうと思えます。他にいかがでしょうか。

【武林委員】

今教えて頂きました進学指導ですけれども9ページの下から4行目に、入試制度が進学指導を考慮すると書いていただいておりますし、それに対して、人的資本を集約する方法も書いていただいております。私がもともとと言っていた7、8限目に進学体制を整えて、7、8限目のところに塾の講師を投入していただくとか、それは人的資源を集約するということと書いていただいておりますので、その努力をしていただけたらありがたいと思えます。具体的に書かれた方がいいかもしれません。

【杉山委員】

岸和田産業高校というとデザインシステム科がメインにできていますが、前も少し言いましたが、産業とは一体何だろうという生徒さんや保護者の方も多し。でも商業科というのを逆に忘れられているという可能性もあります。商業科というの一体何だろうという疑問が結構多いと思います。

しかし、現在社会的なものを動かすにはコンピュータでありそういう会社の全体的な経理作業であり、卒業生に聞くと簿記という名前、借方、貸方こんな1つだけでも会社に褒められたとかよかったという声も結構あります。そういう商業科イコール産業高校では、非常に素晴らしいコンピュータシステムであるとか、いろんな現場にあったそれなりの機器も含めて指導ができるということをもっとアピールできたらいいと思っています。

先ほど言った専門分野でも、産業高校で運動していたからということで大学に行けますと、産業高校で3年間頑張ったおかげで子どもが大学に行きましたという声も最近よく聞きます。そういう意味では何かその学校のPRではないですが、学校全体で何かこうしますではなくて、産業高校ではこんな風に指導しておりますというような、アピールするものがあれば、もっと積極的に大々的に言うべきではないかと思っています。

【藤田会長】

6ページのあたりに書き加えて、改善充実の視点として、生徒たちがいきいきと自己実現に向けてやっけていけているというような観点で少し書き加えていこうと思います。

他に意見等ありますでしょうか。

【香月委員】

すいません。12ページの下から3行目のところで、あくまでもここで例えばで始まっていますので1つの例であるという事は重々承知しておりますけれども、これのスケジュール感が改革のペースとして、もう少し上がっていかないのかなというところが今回読ませていただいて一番気になったところでございます。

パイロット3年その後認知のために3年、見極めるための期間、その後に学科設立のための判断となりますと、学科設立になるとさらに10年経って次の新しい学習指導要領が始まってしまうということになるので、今この時期に検討していてかなり年数が経つのではないかと。その頃にはまた新たな世間の動きが始まってくるかと思っていますので、パイロット期間のところ例として書かれているクラブ活動というのが8ページの下から7行目にでてくる商品開発クラブの実践ということであればすでに実践はされているわけですから、例えばそれをコンテスト等にも応募されたりしているかとは思いますが、ビジネスコンテストであるとか、そのあたりで実績等があるようでしたらそれを表だししながら、それでいけば地域への認知等、期間的にもオーバーラップして進んでいけるかと思っていますので、もう少し改革のペースを上げられるようなスケジュール感で記載できないかなと考えております。

【藤田会長】

これについては今言っていた通りで、実質パイロット期間については済んでいるという認識のもとですので、実際次のステップに進んでいっていいかと思います。これは私が置かれている立場上の問題でして、大学の発想で、何かやったらまずは4年間回してから再検討して、次のステップという発想で物事を動かしていますので、どうしても3年3年で動かしていかないといけないのではないかという発想なので、実質最初の3年のところは済んでいるという前提のもとでお考えいただければと思います。もう少し表現だけの変更させていただきます。

特になければ今、多々ご意見をいただきましたのでその点について加筆すべき点については追記して、表現を変える点については表現を変えた上で、最終的には答申案として再度皆様方に目を通していただき答申としたいと思いますが、その際にはまたお目通しをいただきますけれども、最終案として会長、副会長に一任していただければと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では今回いただいた意見を踏まえて再度、加筆修正等を行いたいと思いますので宜しくお願い致します。では次の議事の方に移りたいと思いますが、その他というところで事務局からお願い致します。

【事務局】

教育長より、ご挨拶申し上げます。

【樋口教育長】

皆様方にお礼のご挨拶をさせていただきたいと思います。来週の3月3日は産業高等学校の卒業証書授与式です。大体300名ぐらいが全定で巣立つという、そういう頃となりました。藤田会長、木下副会長をはじめ、委員の皆様方、6月にこの審議会がスタートして、こちら教育委員会からの諮問を受けて本当に貴重なご意見をいっぱいいただいたところでございます。何をにおいても産業高等学校が特色あるいは魅力ある高等学校に改変していきることと、それがまた生徒にとって保護者にとって行きたい学校、行ってよかった学校、そしてまたそれが地域に広がって地域社会に貢献できる、活躍できるそういう人がたくさんでくるように、今卒業生が2万8千人程度輩出されておりますけれどもそれぞれの方々がそれぞれの立場で活躍していただいているのも産高生の卒業生だと認識しているところです。これからもそういう特色のある学校で学んで、立派に卒業していただけることを期待しているところです。

ちなみに、新学習指導要領が小学校で来年から年次的に、中学校がその後、また高等学校と実施される予定となっております。その学習指導要領では、これからの社会の変化に対応できる、そういう力をしっかり生徒たちに身につけさせようと、つけてもらおうという意図で今回記載されているところが多くあります。特に、これまでの先生方が教えるという立場よりも、生徒たちが学んでいこうとする主体的な学びを中心とした内容になっておりますので、産高の子どもたちも色々と先ほど出てきましたように、選択して自らが何

を学びたいか、どう学んでいこうかあるいはどういう風に卒業した後活躍しようと思っ
ているのかという夢や志を持って進めていけることだと思っております。

これまでの貴重なご意見をもとにしまして、今後また教育委員会としてしっかりと答申
をもとに構築し、できるだけ香月先生に言っていただきましたようにスピード感もなかつ
たらゆっくりというわけにもいきませんので、慎重にしながらもできるところは大胆に改
革しながら進めていけたらというふうに思っております。

非常に6回のなかで私も学ばせていただきました。これからの産高のことをまた末永く
見守っていただいて、またときにはお力添えをいただきますことをお願いいたしまして、
お礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【藤田会長】

以上で本日に予定していた内容は全て終わりました。委員の皆様のご協力、ありがとう
ございました。これにて、第6回岸和田市産業教育審議会を閉会といたします。

本会議録に相違ないことを認め署名する。

会 長 _____

副 会 長 _____

署名委員 _____